

キッズ・モニターアンケートの概要 「手話について」

アンケートの実施結果は以下のとおりでした。
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

概要

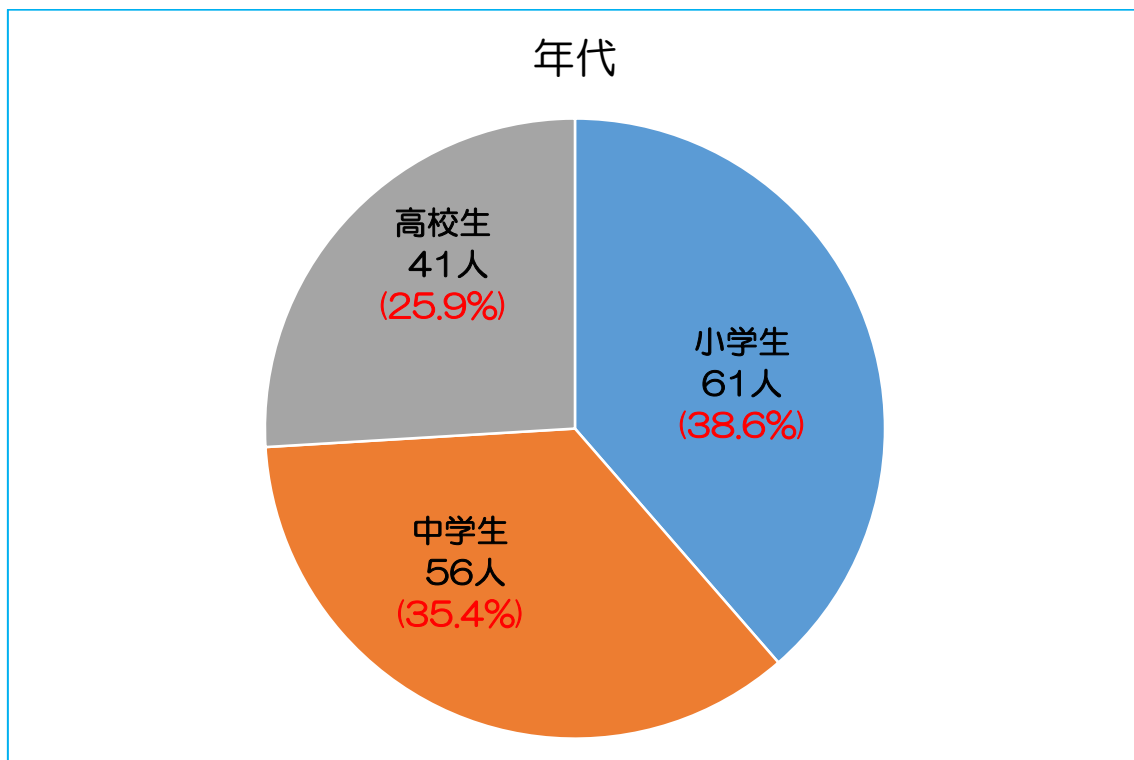
1. 実施期間 令和4年12月9日（金）～令和4年12月26日（月）
2. 回答者数 158人
3. 回答率 28.3%（158人／558人）
4. 実施方法 インターネットによるモニター調査
5. 担当課 子ども・福祉部 障がい福祉課

アンケート結果概要

Q1 あなたの年代はどれですか。

【単一回答】

今回回答えていただいた方の年代は、下の表のようになりました。

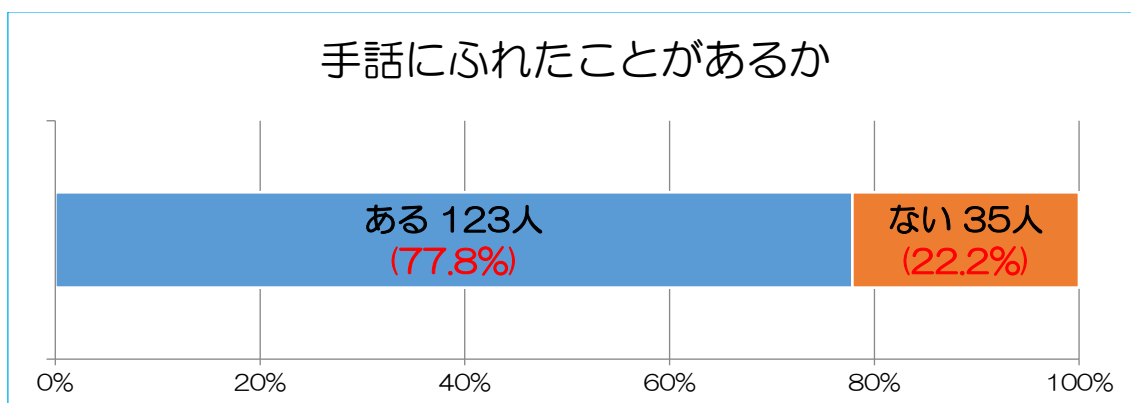


Q2 あなたは、これまでに、手話（しゅわ）にふれたことがありますか？
 （手話にふれるとは、手話を使う人に会ったり、手話を見たり、
 体験したり、学んだりすることです。）

【単一回答】

手話にふれたことが「ある」人の割合は 77.8% となり、おおよそ 10 人のうち 8 人が手話にふれたことがあることがわかりました。

また、手話にふれたことが「ある」人の割合は、小学生や中学生と比べて、高校生がやや高い結果になりました。



手話にふれたことがある人の割合（年代別）

	小学生	中学生	高校生
ある	79%	71%	85%
ない	21%	29%	15%

<手話にふれたことのある人の割合の推移（キッズ・モニターアンケート）>

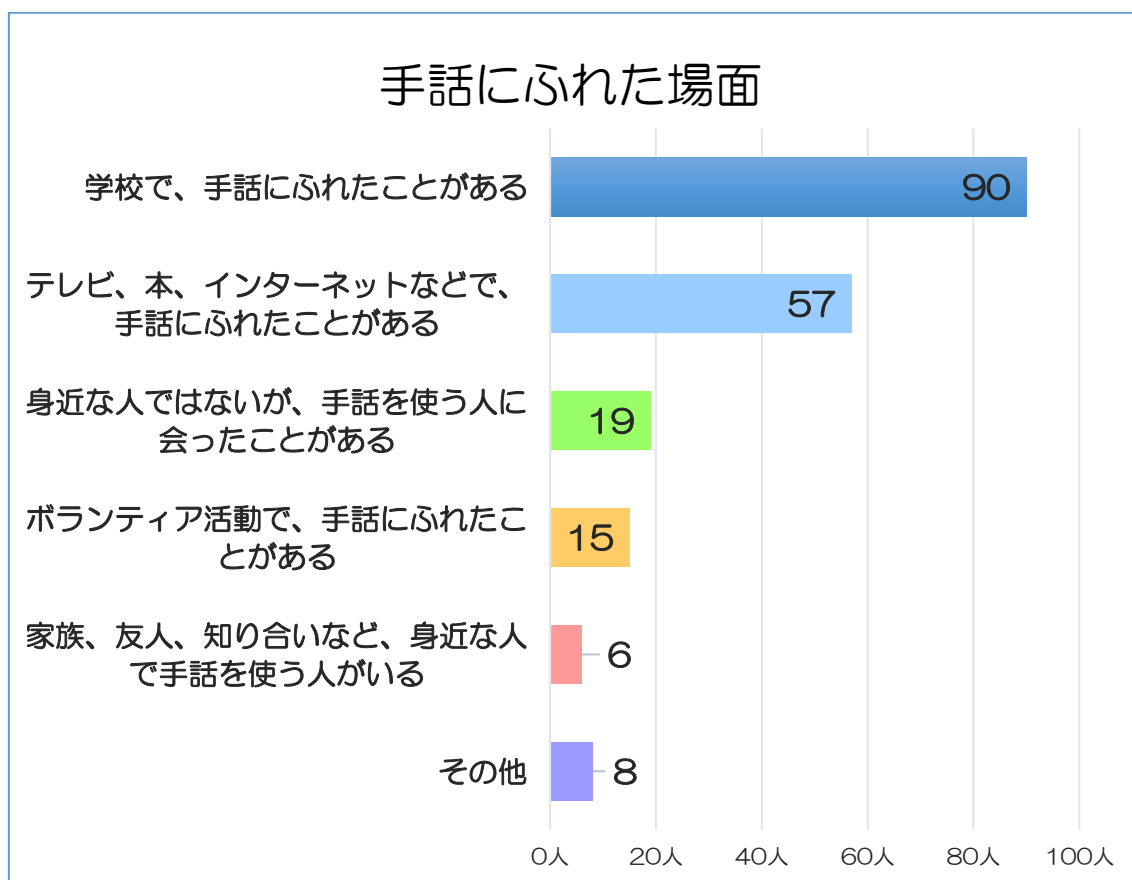
平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
63.1%	64.2%	72.7%	72.9%	78.4%	77.8%

Q3 Q2で「ある」と答えた人にお聞きします。
それはどのような場面でしたか？
あてはまるものすべてをえらんでください。

【複数回答】

実際に手話に「ふれる」のは、「学校」(90人)が最も多く、次に「テレビ、本、インターネット」(57人)が多い結果となりました。

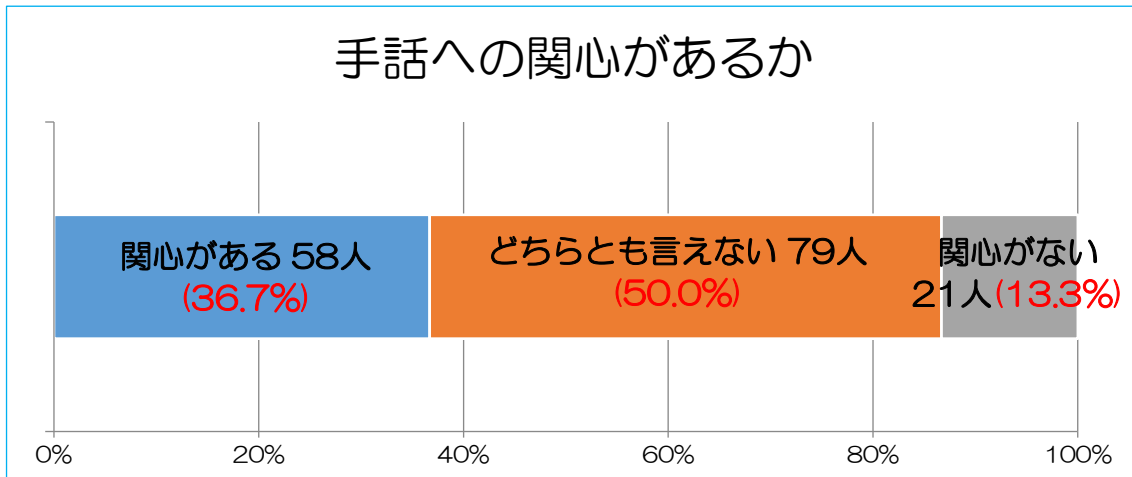
また、「その他」としては、「幼稚園で教えてもらったことがある」、「国語の教科書にのっていた」、「市の行事でふれたことがある」などの回答がありました。



Q4 あなたは、手話に関心がありますか？

【単一回答】

手話に関心がある人は約4割となり、関心がない人を大きく上回りました。
また、年代別では、小学生と高校生の方が、中学生よりやや関心が高い結果になりました。



手話に関心がある人の割合（年代別）

	小学生	中学生	高校生
関心がある	39%	34%	37%
どちらとも言えない	46%	52%	54%
関心がない	15%	14%	9%

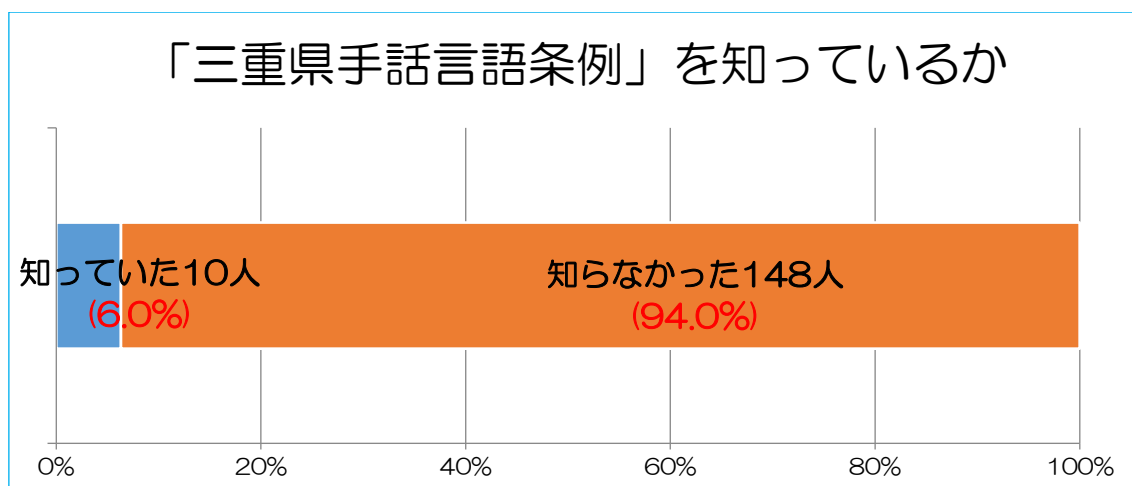
Q5 あなたは、平成29年4月1日に「三重県手話言語条例」ができたことを知っていましたか？

【単一回答】

三重県手話言語条例について、「知っていた」人の割合は、前回調査（令和3年12月実施）の3.0%から少し増えましたが、依然として知らない方が多い状況です。

「三重県手話言語条例」では、手話は、ろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）がコミュニケーションをとるための大切な「言葉」であることや、県は、手話を使いやすい環境づくりを進めること、また、県民のみなさんの役割として、手話への理解を深めていただくこと、などを定めています。

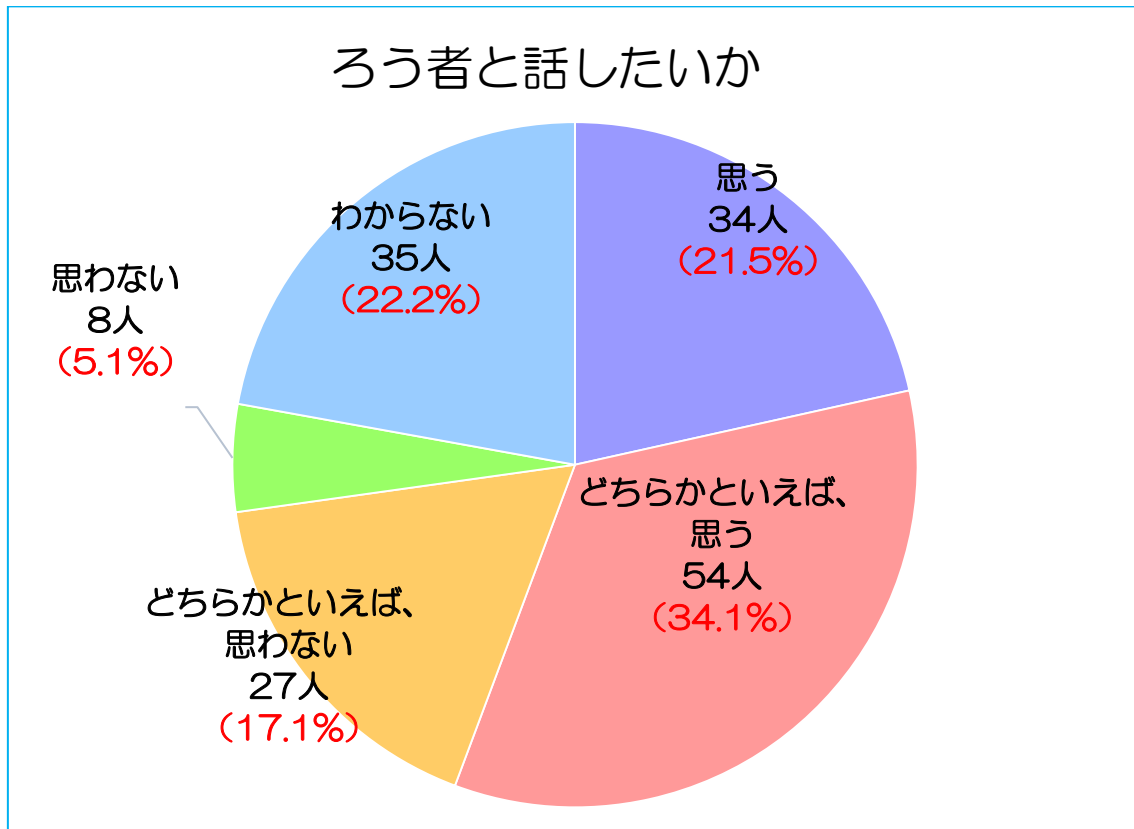
県では、県民が手話を学ぶ機会の確保や手話通訳を行う人材の育成などの取組を一層進めることにより、聞こえる人とろう者が、おたがいを尊重し、だれもが手話に親しみ、手話が広く利用される社会になることをめざしていきます。



Q6 あなたはろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）と話したい
と思いますか？

【単一回答】

「思う」、「どちらかといえば、思う」と回答した人が約6割近くとなっているものの、「わからない」と回答した人も多い結果となりました。

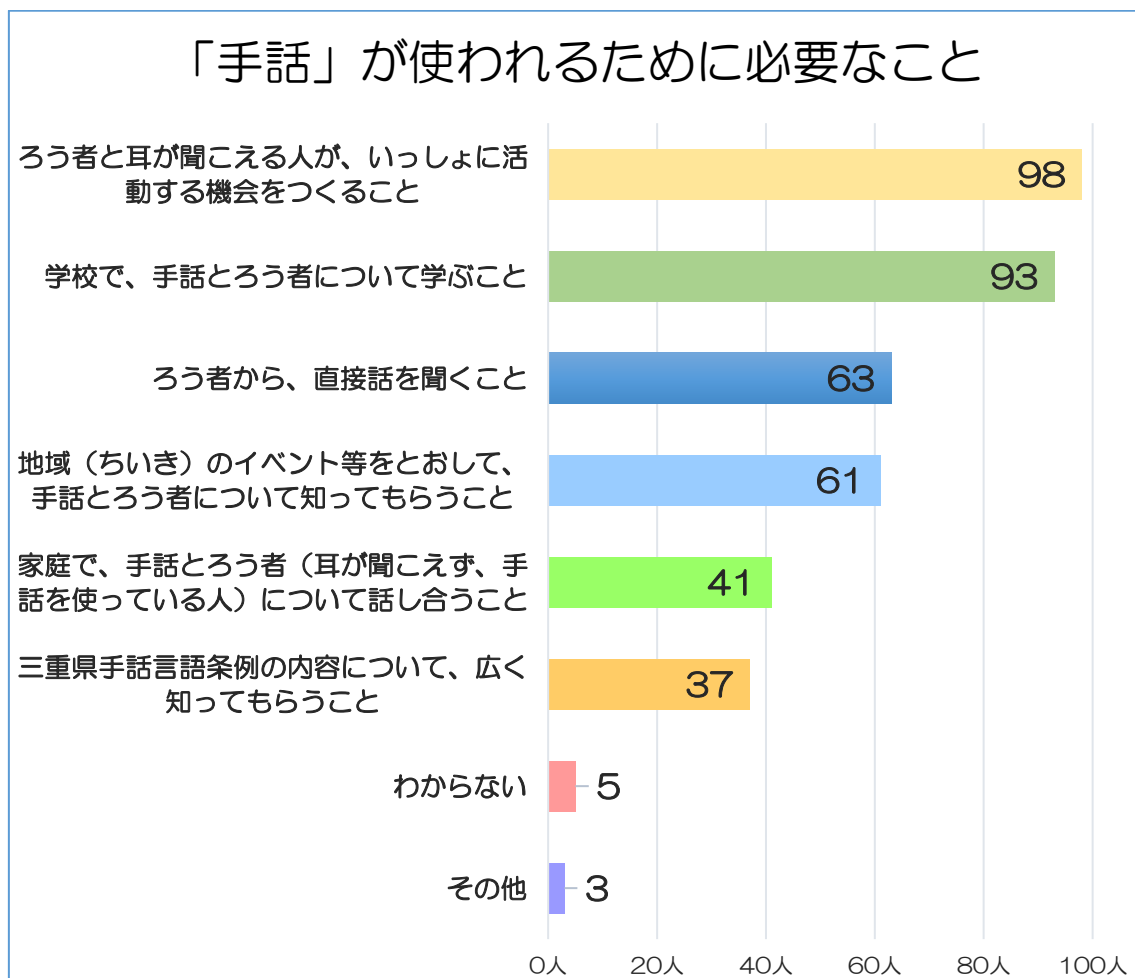


Q7 あなたは、「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、どのようなことが必要だと思いますか？
あてはまるものすべてをえらんでください。

【複数回答】

「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、多くの方が「ろう者と耳が聞こえる人が、いっしょに活動する機会をつくること」(98人)、「学校で、手話とろう者について学ぶこと」(93人)が必要と考えていることがわかりました。

また、「ろう者から、直接話を聞くこと」(63人)や「地域(ちいき)のイベント等をとおして、手話とろう者について知ってもらうこと」(61人)といった回答も多く寄せられました。



Q8 あなたの持っている「手話」のイメージについて、教えてください。

【自由回答】

「手話」のイメージについて、「むずかしそう」、「覚えるのがたいへんそう」などが多い一方で、「使えたらいい」、「手話ができたらカッコいい」などの回答もありました。その中で、いくつかの回答を紹介します。

「手話」のイメージについて

- 手話を理解している人以外には伝わらないので難しいが、周りの騒音とか、多少離れていても伝えられる事もできる。
もっと身近に習うことができればいいと思う。
- 手の動きだけで会話ができるなんて不思議。
- 難しそうだが、友達や知り合いが耳が聞こえない人だったら、コミュニケーションを取るためにやってみようと思うかもしれないと思った。
- 通学の電車で時々、手話で会話してる方をみかけます。
とても楽しそうにテンポよく会話されているので、何度かみかけるうちに手話の地味なイメージがなくなり、私も機会があればふれてみたいと思います。
- 英語と同じで使わないと理解できない。
- むずかしそうだけれど、使って話をしてみたいです。
筆談などの他の方法や手話などを組み合わせて、手話を知らない人でも耳が聞こえない人とコミュニケーションがはかれるようにしてみたいです。
- 耳が聞こえなくてもいろんな人たちと関わりを持つことができるもの。
- アイドルグループが振り付けに使っている。
- 手話で通訳している人を見ると自分にできないことが出来ているので、そこはカッコいいと思います。
今手話を扱うあるドラマが放送されているので世間の手話への関心も高まるんじゃないかなと思う。
- 手話を使うと耳の聞こえない人の気持ちを聞くことができる。でもちょっとむずかしそう。
- 手話ニュースをみていると、あのスピードでやるのはすごいと思う。
- どんな人とでもコミュニケーションを取れる方法。
私たちが手話を分かれば障がいなど関係なく遊んだり会話をしたりすることが出来る。